

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	オレンジハウス（放課後等デイサービス）		
○保護者評価実施期間	2025年 11月 11日		～ 2025年 11月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	12名	(回答者数) 10名
○従業者評価実施期間	2025年 11月 21日		～ 2025年 11月 21日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数) 6名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 1月 22日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にを行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	こどものことを十分理解し、子どもと保護者のニーズや課題が分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	日々の支援終了後にその日、関わった職員全員で振り返りを行い子どもの様子や変化、関わり方について共有しています。職員1人の見立てにかたよらず、複数の視点から、子どもを捉えることで、より客観的な理解につながるよう努めています。	継続してきた日々のアセスメント・モニタリングを土台としながら、支援の視点や記録の質をより高めることを取り組んでいます。子どもの行動だけでなく、「背景にある要因」や「環境との関係性」まで意識して支援する。
2	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	連絡帳を活用し、その日の子どもの様子や活動内容、気づいた点を丁寧に伝えるようにしています。様子がイメージしやすいようできるだけ具体的なエピソードやことばを用いることを心がけています。また体調面や情緒面の変化、早めの共有が必要と判断した場合には、電話での連絡や送迎時の対面での説明を行い、行き違いが生じない配慮しています。家庭での様子を聞き取ることも意識し、双方向のやりとりを大切にしています。	より伝わりやすい情報共有を意識していきます。具体的には、子どもの様子や成長が保護者様に伝わりやすい表現を心がける。気になる点については背景や支援の意図もあわせて伝えるなど内容の質を高めていきます。
3	こどもは安心感をもって通所していますか。	気持ちに寄り添い共感的に話を聴く関わりを意識し、不安や戸惑いがある際にも安心して気持ちを表出できるよう支援しています。また活動の流れや一日の見通しが持てるよう環境を整備し、変更がある場合等には事前の声かけや説明を行うことで不安の軽減につなげています。	不安や安心のサインをより丁寧に捉えられるよう、職員間での情報共有の質を高め、関わり方や配慮に統一を図っていきます。また安心につながる関わりや落ち着いて過ごせた要因を振り返りの中で整理し、支援に活かすことでより安定した環境の維持と向上につなげていきます。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	非常災害時に備えた避難訓練については、長期休み期間中に年2回実施しているものの、実施内容や目的について、保護者様への周知が十分とはいえない状況があった。	避難訓練を継続するとともに、実施内容やねらいについて周知の強化をしていきます。また、訓練を単発で終わらせるのではなく、日常の支援の中でも災害時の行動や約束を確認する機会を設け、安心して行動できるよう支援につなげていきます。
2	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	各種マニュアルは策定され、職員の研修も年間計画のもと実施しているが、保護者様への周知が十分ではなかった。	保護者様への周知をより丁寧に行う。具体的には、契約時や年度はじめなどの機会を活用し、事業所の安全管理体制について説明します。
3	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	父母の会等については、開催の必要性を認識し、夏休みに親子で参加できるイベント（夏祭り2025）の実施を予定していましたが、雨天のためやむを得ず中止となり実施には至らなかった。	父母の会や保護者会の開会を計画的に確保できるよう、天候等の影響を受けにくい実施方法を検討していきます。